# 学力向上フロンティア事業中間報告

（都道府県　千葉県）

## Ⅰ．学校の概要

| 館山市立第二中学校 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | １　年 | ２　年 | ３　年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | ４ | ５ | ４ | ２ | １５ | ３２ |
| 生徒数 | １４３ | １６３ | １４８ | ９ | ４６３ | |

## Ⅱ．実践研究の概要

### １．主題（テーマ）

『基礎的・基本的な学習事項を身につけ，自己実現の図れる生徒』の育成

～　個に応じた指導法の工夫・改善と，互いに高め合う集団の形成の方法を探る　～

### ２．内容と方法

(1) 実施学年・教科

○個に応じた指導について
・　全学年全教科　（生徒の理解度に差があり，それに対応する必要があるため）
○少人数指導について
・　１，２年生数学（特に生徒の理解度に差が出やすい教科，学年であるため）
・　３年生英語　（　〃　）
・　１年生国語　（学習の土台となる読み・書きの力を確かなものにするため）

(2) 年次計画

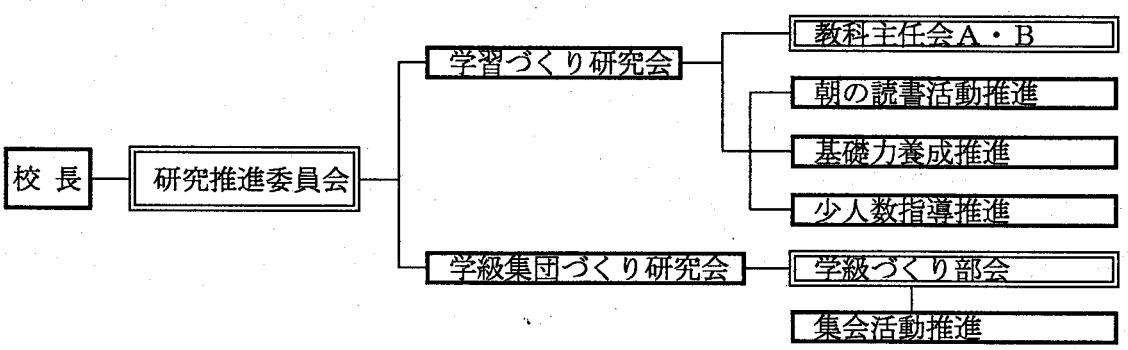
平成14年度

○テーマ
『基礎的・基本的な学習事項を身につけ，自己実現の図れる生徒』の育成
～ 個に応じた指導法の工夫・改善と，互いに高め合う集団の形成の方法を探る ～
(1)　教科学習における基礎的・基本的な学習事項の徹底と問題解決力の育成に関して，これを可能にする個に応じた指導法の工夫・改善を図る。
(2)　生徒一人一人が安心して学習に没頭できる集団づくりを進める。
○研究の見通し
(1)　教科サークルでの研究を基盤とし，初年度内に各教科の基礎的・基本的な学習事項を明確にする。またそれを身につけるための個に応じた指導の方法を練る。
(2)　年度の前半までに話し合いのルールづくりをし，その後は小集団活動の中で活用していく。
○研究の内容・方法
(1) 教科指導における個に応じた指導法の工夫・改善
①指導の個別化を図るために
・少人数制によるコース別学習の在り方を工夫する。（数学・英語）
・共通学習と課題選択学習の在り方を工夫する。（国語・社会・理科等）
②評価を指導の改善に生かすために
・絶対評価の評価規準の整備と見直し，自己評価の在り方を考察する。
③指導の個別化を支える条件整備
・学習材の工夫・開発をする。　・パソコン及び校内ＬＡＮの活用する。
(2)　基礎（学）力〔読む力・書く力・計算する力〕の養成
・教育課程への位置づけを検討する。　・朝読書を位置づける。
(3)　互いに助け合い認め合って学習に取り組める学級集団の育成
・学級活動に小集団活動を取り入れる。
・話し合い活動の在り方を検討する。　・人間関係づくり（道徳の充実）

| | |
|---|---|
| 平成15年度 | ○テーマ<br>『基礎的・基本的な学習事項を身につけ，自己実現の図れる生徒』の育成<br>～ 個に応じた指導法の工夫・改善と，互いに高め合う集団の形成の方法を探る ～<br>(1) 教科学習における基礎的・基本的な学習事項の徹底と問題解決力の育成に関して，これを可能にする個に応じた指導法の工夫・改善を図る。<br>(2) 生徒一人一人が安心して学習に没頭できる集団づくりを進める。<br>○研究の見通し<br>(1) 教科サークルでの研究を基盤とし，年度当初に各教科の基礎的・基本的な学習事項の見直しをし，それらを身につけるための指導法や学習形態を練り，まとめる。<br>(2) 安心して学習に取り組める集団づくりのための組織を年度当初に立ち上げ，学習集団づくりの具体的な手立てについて練り上げ，実践する。<br>○研究の内容・方法<br>(1) 教科学習における基礎・基本の徹底と問題解決力の育成に関して<br>①各教科において，指導を個別化する方法のより一層の明確化を図る。<br>・数学・英語における少人数指導（コース別学習）の充実を図る。<br>・国語において少人数指導（２分割異質集団）を導入する。<br>・国語・社会・理科における課題選択学習の導入する。<br>・全教科における一斉学習(共通学習)時の，個の違いに応じる手立ての更なる工夫・改善を図る。<br>②評価を指導の改善に生かす手立ての明確化<br>・学力を把握する判定テスト作成・実施，自己評価の活用<br>③基礎（学）力の定着状況の把握<br>(2) 生徒一人一人が安心して学習に没頭できる学級集団づくりに関して<br>・平成１４年度明らかになった課題についての具体的な手立ての構築と全校共通しての取り組む。<br>・学級集団（学習集団）づくり部会の研究組織への位置づけと活動の推進<br>(3) 教育課程の見直し<br>・総合的な学習の時間及び選択教科の再編成　・朝読書の充実<br>・基礎（学）力養成時間の時程への位置づけ |

| | |
|---|---|
| 平成16年度 | ○テーマ<br>『基礎的・基本的な学習事項を身につけ，自己実現の図れる生徒』の育成<br>～ 個に応じた指導法の工夫・改善と，互いに高め合う集団の形成の方法を探る ～<br>○研究の見通し<br>(1) 各教科サークル練り上げた個に応じた指導法・学習形態等の成果と課題をまとめあげる。<br>(2) 仲間と共に高め合える学習の土台となる人間関係づくりの実践から，その成果と課題をまとめあげる。<br>○研究の内容・方法<br>(1) 教科学習における基礎・基本の徹底と問題解決力の育成に関して<br>各教科サークルやプロジェクトチームでの研究の成果を要請訪問などで実践し，修正・見直をし，研究のまとめをする。<br>(2) 生徒１人１人が安心して学習に没頭できる学習集団づくりに関して<br>人間関係づくりの取り組みを各学級で継続的に実践し，「仲間への配慮」，「仲間との関わり」を視点とした意識調査で，人間関係の在り方の変容をとらえることで研究の成果と課題を洗い出す。 |

(3) 研 究 体 制




※ 本年度より，基礎力養成のを研究するための「基礎力養成推進」，国語・数学・英語における少人数指導の研究を推進する「少人数指導推進」，子ども達が互いに高め合える学習集団づくりのための「学級集団づくり部会」を組織した。

# Ⅲ．平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

## １．研究の成果

＜ 研究実践　～　本年度の主な取り組み　～ ＞

### （１）　「分かる授業」づくりのために

**① 教育課程の工夫**

| | １　年（４学級） | ２　年（５学級） | ３　年（４学級） |
|---|---|---|---|
| 国　語 | １学級２教師による指導 | | |
| 数　学 | ペア学級，２学級４教師による指導 | ペア学級，２学級４教師による指導<br>「習熟度別コース別学習」を展開 | |
| 英　語 | １学級２教師による指導<br>・50分授業×２回 ＋ 25分授業×２回<br>・25分授業のペアは「基礎力要請タイムＡ」 | | ペア学級，２学級４教師による指導<br>「興味関心別コース別学習」展開 |
| 技術家庭 | | 「家庭科」にＴＴ指導を導入 | |
| 基礎力養成タイム | 25分英語の後に「基礎力養成タイムＡ」を設置<br>月・木曜日の清掃終了後に「基礎力養成タイムＢ」を設置 | | |

**②「基礎力養成タイム」での取り組み**

**ア．「基礎力養成タイム」の概要**

学力向上は，各教科の授業はもちろんのこと，学年・学級経営，生徒会活動など，様々な場面からアプローチしていくことが重要である。そのような中にあって，生徒の学習を支える基盤である「基礎力（読み・書き・計算の力）」の定着は，本校としても力を注いでいかねばならないことの一つである。

本校では「基礎力」を養成する時間として「基礎力養成タイム」を新たに設置した。基礎力養成タイムはＡ，Ｂに別れ，Ａは１・２年生対象で２５分英語終了後の後半２５分間の取り組みとなる。またＢは全学年対象で，月曜日と木曜日の清掃終了後の２５分間が学習の時間となる。

Ａ，Ｂともに各教科サークルが準備した学習プリントに取り組み，答え合わせ，プリントのファイルへの綴じ込みとデータ処理などが含まれる。

| | 基礎力養成タイムＡ | | 基礎力養成タイムＢ | |
|---|---|---|---|---|
| １　年 | 国　語 | 英　語 | 数　学 | 数　学 |
| ２　年 | 国　語 | 英　語 | 数　学 | 英　語 |
| ３　年 | | | 数　学 | 国語・英語(隔週) |
| 指導担当 | 学年職員 | | 各学級担任 | |

**イ．各教科の取り組みと現状**

【 国　語 】

○ 生徒に身につけさせたい基礎力

一学期当初に小学校１～６年生までの漢字のテストを実施した結果，１・２年生の漢字はほぼ１００％書けるが，３・４年生の漢字は１割の生徒が半分以下，５・６年生の漢字では３割の生徒が半分以下しかできないという現状が分かった。

・　小学校６年生までの漢字の読み書き（漢字検定５級程度）
・　正しい原稿用紙の使い方
・　正確に視写，聴写する力

○ これまでの成果と今後の改善点

・　課題への取り組みが真剣にできるようになった。問題の最後に次回の出題範囲が載っているので，生徒の中には進んで練習をするようになり，点数も上がってきた。
・　今後は「練習すること」の徹底を図ることが大切。また同じ問題で繰り返し学習させることも必要だと考える。

【 数　学 】

○ 生徒に身につけさせたい基礎力

・　２つの整数の四則，２つの分数の四則，そして２つの単項式（１次・係数は整数）の加減を短時間で正確に計算することができる力
・　最後まであきらめずに取り組める粘り強さ

○ これまでの成果と今後の改善点

・　定着判定テストの結果，各学年とも各領域において平均点の向上がみられ，どの学年も基礎計算力が向上したことが分かった。（単位は「点」）

| | | 正の整数の四則 | 正の分数の四則 | 正負の整数の四則 | 正負の分数の四則 | 単項式の加減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １年 | １回目のテスト | ７０．８ | ４２．１ | － | － | － |
| | ２回目のテスト | ７５．２ | ５１．３ | ５１．３ | ４１．５ | － |
| ２年 | １回目のテスト | ７８．４ | ５０．４ | ５２．８ | ４０．５ | ４７．７ |
| | ２回目のテスト | ８４．１ | ５６．６ | ６３．２ | ４９．０ | ６４．３ |
| ３年 | １回目のテスト | ８３．５ | ５４．３ | ６８．８ | ５５．０ | ７４．０ |
| | ２回目のテスト | ８５．３ | ６０．８ | ７２．９ | ５８．３ | ７５．３ |

・　基礎力養成タイムでの計算に集中して取り組めている。しかし中にはあまり集中できなかったり，諦めてしまっている子ども達もいる。授業や家庭学習でも同じような様子がある。今後対応策を考えていく必要がある。

【 英　語 】

○ 生徒に身につけさせたい基礎力

英語科では，「実践的コミュニケーション能力」の基礎を養うための重要単語と文を基礎・基本と考える。
・　１年生：アルファベット・ヘボン式表記・新出単語，２年生：１年生で学んだ重要単語，３年生：重要文型・英語を聞き取る力など

○ これまでの成果と今後の改善点

・　１年生での判定テストの結果（下表）では，正答率が半数を下回っていた。その場限りの学習にとどまってしまっているので習得が難しかったのではないか。

| １年生 | 新出単語和訳 | 新出単語英訳 | 新出ヘボン式表記 | 平　均 |
|---|---|---|---|---|
| 正答率 | ５８％ | ２４％ | ６４％ | ４８％ |

・　１・２年生については，課題の提示方法をもっと工夫していきたい。
・　教科書で扱われないが，コミュニケーションでは大切な単語や生徒が知りたい単語なども積極的に学習に取り入れたい。
・　個人差に応じた段階的プリントを準備する。
・　「書く」だけの学習から「音声活動」も取り入れたい。

**ウ．「基礎力養成タイム」の今後**

昨年度半ばから数学を中心として始まった基礎力養成の取り組みであるが，限られた時間の中でいかに効率よく基礎力を定着させるか，また生徒にとって，とかく単調な取り組みになりがちな学習をいかに集中した取り組みができるようにしていくかは，大きな課題である。
次年度に向けて更に試行錯誤を繰り返し，生徒にとって実となる時間をつくり出していきたい。

**④ 教科における「分かる授業」づくりの取り組み**　　～ 国語科の取り組みより ～

本校では全教科において「分かる授業」づくりのため，生徒の学力の違いに応じた指導の工夫に取り組んできた。各教科ごとに，研究目標，目指す生徒像，研究仮説，指導の重点と手だてなどを設定し，３回の指導主事要請訪問を通して指導法の工夫・改善を図ってきた。
ここでは本年度より少人数指導の始まった国語科の取り組みを紹介する。他教科の実践紹介については本校研究紀要の参照を願いたい）

## 【国　語】

○ 研究目標

意欲を持ち主体的に国語の学習に取り組む生徒の育成を目指す

○ 目指す生徒像

- 学び方を身につけ，自ら学習しようとする生徒
- 積極的に発言し，話を聞く生徒
- 互いに高め合えるような活動をする生徒

○ 研究仮説

- 個に応じた指導，援助の工夫をしていくことで，生徒に自力で課題を解決していく成就感，満足感を味わわせ，意欲をもって学習に取り組ませることができるであろう。
- 個別に解決する場（時間），磨き合いの場（時間）を設定することで，学習内容の深化，発展を図ることができるであろう。
- 生徒個々の実態を把握し，それにあった課題を設定することで，生徒が自分の持つ興味・関心，能力，適正を考え合わせ，自ら課題選択することにより，個のよさを発揮させ，充実感を持たせることができるであろう。
- 生徒個々の主体的な活動を尊重し，教師は援助者に徹することにより，成就感が得られるであろう。

○ 指導の重点と手だて

| 指導の重点 | 手だて |
|---|---|
| 個別に解決する場（時間）の設定，磨き合う場の設定，個に応じた指導，援助の工夫 | ・個々が自ら学習の手順を知り，一人で学習ができるよう援助する。<br>・机間指導やノート指導を通し，個々にあった助言，賞揚，評価を十分行う。<br>・相互評価・自己評価カードを活用する。 |
| 自分で自分の力（読み，書き，語句）を伸ばそうという意識を高めさせる | ・学習の仕方（漢字・語句調べの進め方，文字指導）を身につけさせる。<br>・自分の考えをノートに書かせる。<br>・自分の考えを話す（発表する）場を持たせる。 |
| 学習課題の設定，学習目標の明示 | ・自己評価や相互評価をさせ，個々の進度や課題解決の状況を意識させる。<br>・机間指導や課題の提出により，生徒個々に対する評価を行う。 |
| 課題選択学習を取り入れた学習内容の工夫 | ・課題選択（設定）→個別学習→一斉指導・発表・教え合い→自己評価<br>・選択課題の内容を吟味する。 |

○ 成果と課題

＜成果＞

- いろいろな段階での課題選択学習や，選択課題別の少人数指導を行うことにより，個々の技能や興味・関心に細かく対応することができた。また個別に支援・指導する時間を多く設定することで，登場人物の関係や主人公の心情の変化を読みとらせ，自力で課題解決させることができた。
- 合同発表会を設定することにより，自分が選択していないコースの内容についても触れることができ，学習内容を互いに磨き合う場になった。
- 生徒は示された課題を選択し学習計画を立てて，自分の目標に向けて熱心に取り組む姿勢が見られた。課題については生徒の実態を考えて設定し，例を示すことでより分かりやすさを持たせることができた。
- 自己評価や相互評価をすることにより，進度や課題の方向性を再認識しながら進めることができた。
- 作文指導は，メモをとり，更に言葉を書き足して，教師の朱書きを入れてから構成を練る手順・手だてをとったので，書けなくて困るという生徒はいなかった。作文が苦手な生徒でも，情景や心情を具体的に５つ以上書くことができた。
- 作文は目的意識を持ち，どのように書くかを考えながら書くことが大切である。よい作品をモデルとして，そのモデルから学ばせたことは，書く際に意識するところを理解させることにつながった。

＜課題＞

- 選択課題コースを設定した場合は，どのコースでも教材の目標に到達できることの保障や，課題相互の接点がどこにあるかを明記しておくべきであった。
- 課題を解決することで，最終的にどこに到達するのか，生徒ともに見通しを持った指導をしなければいけない。もしも到達すべき点からはずれているようであれば，それを修正する必要がある。目指す授業像を常に頭に入れておくことが肝要である。
- 生徒は積極性や集中力の点で，個人差が大きい。学習に対して受動的な生徒も多いため，課題の設定について，提示等をより工夫する必要がある。

・　課題を選択し，どこにたどりつくことが目的なのか，何をつかもうとしているのか，目指す先を常に意識し，見失わないようにすべきである。
・　最終的には自分で解決する方法を考えて進められるように，実態を把握しつつ段階を考えた指導が必要である。
・　自己評価項目の内容を更に吟味して，個々が評価することによって，自己の今ある姿や到達すべき目標を把握できるように改善する必要がある。
・　作文指導では，言葉を意識して使う「言語技術」のレベルから，いろいろな場所で言葉の対応ができる「言語技能」のレベルへと引き上げなければならない。
・　漢字の読み書きにかなり苦労する生徒がいるので，朝読書や漢字ドリル学習を見直し，確かな学力が身についているかどうか，獲得した技能が使えるかどうか，更に検証していかねばならない。

## （2）　学級集団づくりのために

生徒達が生活をし学習をする基本的な集団が学級である。ゆえにこの学級集団がどのような状況にあるかは，生徒達の学力向上に大きな影響を及ぼすことは確かなことである。そこで本校では，この学級集団が，生徒達にとって安心して課題追究に没頭でき，互いに磨き合い，高め合えるものにするため，「学級集団づくりプロジェクト」を立ち上げた。本年度はその初年にあたり，特に班や小集団の活性化，集会活動の基本的なルールづくりに取り組んだ。以下に，その取り組みの一部を紹介する。

【 学級集団づくりプロジェクト 】

○ 研究目標
　落ち着いて学習に取り組める学級集団の育成

○ 目指す学級像
・　子供の居場所となる学級（集団の中で個人が生きる学級）
・　学習集団として磨き合うことのできる学級

○ 目指す生徒像
・　学級生活において，仲間を思いやり行動をとることのできる生徒
・　意欲的に学習に取り組もうとする生徒
・　話し合いができ，お互いの考えを深め合うことができる生徒

○ 指導の重点と手だて

| 指導の重点 | 手だて |
|---|---|
| 居場所となる学級づくり | ・グループエンカウンターなどを活用し，学級生活における満足感や充実感を高める。<br>・学校行事やユニット学習など，仲間との活動を充実させ，思いやりの心を育成する。<br>・学級の役割や行事の仕事分担において，一人一役を設けるなど，存在感を高める。<br>・話し合いのルールが身につけられよう，繰り返し訓練する。<br>・道徳の時間の充実を図り，豊かな人間性を育成する。 |
| 学習に対する意識の向上 | ・各教科において導入や学習方法を工夫し，学習に対する興味・関心を高める。<br>・一人一人の生徒の学習に対する目標を持たせる。 |
| 学習集団としての質の向上 | ・教科指導における小集団による活動を通して「聞く・話す」態度を育てる。<br>・学年集会，生徒集会，朝の合同学活の持ち方を工夫し，人前で話す訓練，聞く態度を育てる。<br>・学習形態を工夫し，なるべく小グループによる話し合い活動を多く設定する。<br>・話し合い活動において，まず一人一人に自分の意見を持たせるような手だてをとる。 |

○ 主な取り組み　～ 成果と課題 ～
　生徒個々が自分の意見や考えを持ち表現したり，人の意見や考えをしっかり吸収しようとする姿勢や態度を育てることが学習の土台を支える集団づくりにつながると考え，主に班などの小集団活動の活性化をねらった取り組みをした。
＜小集団による話し合いやエンカウンターの実施＞
☆　ノートやワークシートに，その場面での意見や考えを書かせる取り組みから，自分の考えや意見をしっかり持てるようになってきた。

☆　小集団による話し合い活動を通して，集団をまとめリードするリーダーが育ってきている。
★　エンカウンターで育てた小集団による話し合いの約束を，授業での集団思考の場面に生かしていくこと。授業者の意識的な取り組みを促したい。

＜朝の合同学活の定例化＞
☆　生徒が主体となって企画・運営することで，大勢の前で話すことに慣れるとともに，仲間の話をしっかり聞けるようになってきた。また学年集団としての一体感が育ってきた。

＜生徒の手による集会活動の推進＞
☆　生徒達による自治能力を高めるために，生徒による学年集会を進めた。自分が意見や考えを発表する場の設定，自分達の学習に対する取り組みを点検し合う場など，集団とそこで生活する生徒個々に関わる場の設定をした。その結果，集団の向上につながる建設的な意見を持ち，発表できるようになってきた。
★　大集団になるほど逆に集中できない生徒，長時間じっくり話を聞く姿勢が保てない者などが出てくる。集会の内容や司会進行の仕方を工夫する必要がある。

＜ 成　果 ＞

**（1）「分かる授業」づくり**

①　３回の指導主事要請訪問を授業実践の見直し・改善の機会とすることで，各教科とも個の違いに応じた指導の手だてが焦点化・具体化された。
②　数学・英語以外にも，１年生の国語，２・３年生の家庭科でＴＴによる少人数指導を実施した。生徒一人一人に対してきめ細かな指導が行われるようになった。
　国語では，個々の考えが深まり意見発表が活発になった。また家庭科では作業中のつまずきに即座に対応できるようになったこと，また作業中の安全の確保が一層なされるようになった。

**（2）学級集団づくり**

①　グループエンカウンターの取り組みで小集団で活動する機会を意図的に設けたことから，学習途中で班をつくれることにぎこちなさや躊躇する姿がなくなった。また仲間と意見を交換（話す・聞く）しながら，考えをまとめていく習慣がついてきた。
②　学校行事の前後や，生活指導のために学年集会を開き，生徒による企画や運営の場を意図的に設定した。このことで話をじっくり聞く姿勢が習慣化されてきた。

**（3）その他**

①　指導主事要請訪問などの授業研究会に相互に参加する機会を持てた。またフロンティア事業のための連絡協議会が持たれ，学区としての研究推進の共通理解が図れた。

## ２．今後の課題

＜ 課　題 ＞

**（1）「分かる授業」づくり**

①　「基礎力養成タイム」や，各教科で推進している指導法の工夫・改善により，どれだけ基礎力が定着し，各教科での学力の向上が図れたのか。これまでのデータを分析し，指導の更なる工夫・改善を図りたい。
②　校内ＬＡＮを活用した授業を増やし，生徒の学習支援を図りたい。
③　毎時間の授業づくりに役立てるための，評価方法について一層の研究を進めたい。

**（2）学級集団づくり**

①　小集団による話し合いの仕方を徹底させるとともに，各教科をはじめ様々な集団思考の場で積極的に活用させたい。
②　学習のきまりや約束事を習慣化し，授業に集中できる環境づくりを進める。
③　基本的な生活習慣の徹底を図るためにも，生徒が主体的な取り組みをする場や機会を増やし，自治的能力を高めたい。

**（3）その他**

①　学区小学校との連携。特に学習指導における情報の共有や指導者の交流を一層進め二中学区として子供達の学力向上に取り組みたい。

＜ 次年度に向けて ＞

（１） 「確かな学力」を定着させるための「分かる授業」の在り方について，本校の３カ年間の研究実践より，成果と課題を洗い出し，地域に向けて発信したい。

（２） 子ども達の誰もが安心して意欲的に学べる学習集団つくりの成果を課題を子ども達の意識の変容をもとに，研究実践の成果と課題を洗い出す。

## Ⅳ．学力把握のための学校の取組について

- 定期テスト（年４回）
- 県学力検定（年１回）
- 基本的学習事項の定着判定テスト〔５教科・自作〕（教科や学習内容の違いに応じた回数）

## Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

○ 中学校における個に応じた指導の実践を，学区小学校の先生方に参観していただく機会を設定した。今後も，こうした取り組みを続けていきたい。

○ 平成１５年度の「研究のまとめ」を作成し，本校の研究実践を学区小学校に紹介する。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 □１５年度からの新規校 ☑１４年度からの継続校

【学校規模】 □３学級以下 □４～６学級 □７～９学級 □１０～１２学級 ☑１３～１５学級 □１６学級以上

【指導体制】 ☑ 少人数指導 ☑ Ｔ．Ｔによる指導 □ その他

【研究教科】 ☑ 国語 ☑ 社会 ☑ 数学 ☑ 理科 ☑ 外国語 ☑ 音楽 ☑ 美術 ☑ 技術・家庭 ☑ 保健体育 ☑ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ☑ 有 □ 無